

予防できる

子どもの事故

問い合わせ
◆健康推進課
☎248-3511

1歳から9歳までの子どもの死亡原因は「不慮の事故」が最も多く、また、死亡に至らない事故も多発しています。

起こりやすい事故と予防方法

○誤飲

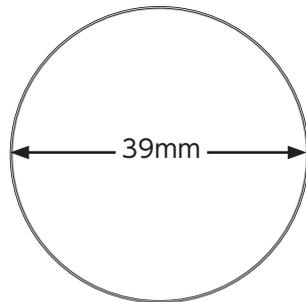
子どもは床に落ちている物に興味があり、手につかめるようになると誤飲事故が多くなります。直径39ミリメートル(図)より小さいものは飲み込めてしまうので、子どもの手の届かない場所に置くようにしましょう。また、衣服のボタンやおもちゃのボタン電池などは、あらかじめ外れな

健康通信

いか確認しておくことが大切です。万が一誤飲をしてしまった場合には、吐かせることで症状が悪化する

する危険性もあるため注意が必要です。公益財団法人日本中毒情報センターの運営する「中毒110番」では、誤飲時の処置の仕方や受診の必要性について相談できます。

■中毒110番(24時間対応)
☎072-727-2499
(大阪)



※実寸大

○転倒・転落

1歳児では、口に物をくわえたまま転倒し、口腔内に傷を負う事故が多くなります。歯ブラシやフォークなどを口にくわえたり、手に持ったままの状態で歩かせないようにしましょう。

子どもが寝返りをうつ時期は、ベビーベッドやソファなどから転落する事故が多くなります。寝返りはある日急にできるようになることもあり、日頃からベッドには必ず柵を立てる、柵のないソファなどには寝かせないなどの対策が必要です。

○窒息・溺れ

睡眠中の0歳児が、柔らかい布団、タオル、よだれかけなどに口をふさがれて窒息する事故が発生しています。寝具は硬めの物を使用し、就寝時はよだれかけを外しましょう。

入浴中の事故では、首に巻く浮き輪が外れて溺れる事故が発生しています。使用時は目を離さないようにしましょう。また、入浴時以外の事故を防ぐため、入浴後の浴槽の水は抜いておく、浴室のドアには高い位置に外鍵をつけておくなどの対策も大切です。

○やけど

ティーブルクロスを引っ張って、高温の飲み物、カップ麺などをひっくり返し、やけどをすることがあります。ティーブルクローズの使用はなるべく避け、カップ麺など軽くて倒れやすいものは子どもの手の届かない場所です。また、ファンヒーターや電気ポット・炊飯器などの熱い蒸気に手を出してやけどをする事故があります。

暖房器具は安全柵で囲い、子どもの興味をひく蒸気の出る器具は手の届かない場所に置きましょう。

もしものときは適切な対処を

日頃から対策をしても、思いがけない事故が起こってしまうことがあります。意識がはっきりしない、嘔吐やけいれん、ひどく出血しているなど重症のときは、ただちに救急車を呼びましょう。

また、厚生労働省が運営する小児救急電話相談事業(＃8000)では、休日・夜間の急な子どものけがや病気の発生時に小児科医師や看護師に相談することができます。どう対処したらよいのか、受診した方がよいのか判断に迷ったときは、＃8000を活用したり、かかりつけ医に電話で相談したりして適切に対応しましょう。

